狂狷（くるやうけん）の表裏一體

坏　博康

平成二十八年（丙申）一月二十五日

子曰、不得中行而與之、必也狂狷乎、狂者進取、狷者有所不爲也

書下文例

子曰く、中行（ちゆうかう）を得て之に與（くみ）せずんば、必也狂狷か。狂者は進みて取り、狷者は爲さざる所あり。（金谷治）

子曰く、「中行を得て之と與（とも）にせずんば、必ずや狂狷か。狂者は進み取る。狷者は爲さざる所有り。」（加地伸行）

子曰く、中行を得て之に與（くみ）せざるは必ずや狂狷なるか。狂の者は進取し、狷の者は爲さざる所あればなり、と。（市川浩）

筆者解釋　先生曰く、常識人を見つけてもこれに從はざる者は、狂者か狷者であらう。狂者は常識人の先に進みて取らんと行動し、狷者は常識通りには動かざる頑固な所ある故、と。

碩學・先達譯例

（一）金谷治譯

先生がいはれた、中庸の人をみつけて交はれないとすれば、せめては狂者か狷者だね。狂の人は（大志を抱いて）進んで求めるし、狷の人は（節義を守つて）しないことを殘すものだ。（『論語』（岩波文庫、三十八年、一八三頁）

（二）加地伸行・宇佐美一博・湯淺邦弘譯

先生が言はれた、中庸の人をみつけて、その人と一緒に行動できないとすれば、せめて狂者か狷者だね。狂者は（理想が高くて）意欲的だし、狷者は（節操がかたくて）惡いことはしない。（『論語』（角川書店、昭和六十二年、三二九頁）

（三）宮崎市定譯

子曰く、缺點のない常識的な人間を見つけて仲間になることができなかつたら、つむじ曲がりか潔癖屋をさがすことだ。つむじ曲がりは勉強するものだし、潔癖屋は慾望のために誘惑されることがない。（前掲書）

（四）平岡武夫譯

孔子の言葉。中道を行く人をみつけて仲間を作れない時には、夢見る男か、偏屈者かが相手だ。夢見る男は情熱的に行動するし、偏屈者は厭なことをしない。（前掲書）

（五）市川浩譯

孔子先生曰く、常に中道を歩む人と知り合ひても、仲間にならないのは、きつと「狂狷」の人に違ひない。狂の人は中に止まらず極端に走つてしまふし、狷の人は中道でさへも進まうとしないことがあるからだよ、と。

冒頭は論語巻第七子路第十三にある言葉なり。狂者は常識人が爲さざる事を敢て爲す者、狷者は常識人が爲す事を敢て爲さざる者の意と解せらる。幕末維新は狂者の時代なり。狂人ならざれば討幕維新の大業は爲し難き故なり。志士達の多くは狷より狂を好む。吉田松陰は「狂夫」を自稱し、『狂夫の言』を草す。山縣有朋は嘗て「狂介」を名乗る。陸奥宗光は筆名を「六石狂夫」と稱す。前原一誠の一時期「原狷介（「けんかい」とも）」を名乗るは寧ろ例外なるべし。

然れども、思ふに、狂狷は一體ならざるや。松陰、新たなる日本を草莽に說くに狂、幕府の彈壓に不屈なるに狷なるべし。山縣有朋、高杉晉作に續かんと維新後の軍改革を斷行するに狂、其の志を貫くに狷なりけむ。陸奥宗光、坂本龍馬亡き後尙も國の洗濯に邁進するに狂、「摯鳥不羣」に徹するに狷なりけむ。因みに、粤王先生、官吏の身乍ら政府の公式見解に抗して集團的自衞權行使を聲高に唱ふるに狂、陸奥に同じく「摯鳥不羣」を座右の銘とするに狷なりけり。

附言するに、諸橋轍次著『大漢和辭典』には、狂者は「志が高く小事を事とせぬ者」、狷者は「固く守る所はあるが心の狹い人」とあり。「心の狹い」との表現には消極的響きあるも、狷そのものの意に就きては「固く節義を守り、意を曲げては爲さぬ者」と解す。

諸先達より「論語讀みの論語知らず」との御叱正あり得べしと雖も、其れは固より覺悟の上、率直なる思ひを吐露するを禁じ得ず。斯かる愚、狂と云ふべきや狷と云ふべきや。

（了）

（平成二十八年二月十四日受附）